



基幹相談支援センター だより ⑤



統合失調症について

統合失調症は、脳の働きが不調となり、幻聴や妄想などを主な症状とする精神疾患のひとつです。また自分の感覚をきちんと感じたり、自分の考えをまとめたりすることが難しくなるといった影響があります。それによって日常生活や社会生活の中で適切な会話や行動、作業をすることが難しくなり、本人の望む生活や人生の実現を妨げることがあります。

統合失調症を発症しやすいのは、10代後半の思春期から20代の割合が多く、国や地域によらず、およそ100人に1人がかかる病気といわれています。本人の性格や親の育て方などは直接的な関係はないといわれています。その割合から考えても決して珍しい病気ではないのですが、世間一般の人々からの認知や理解が十分得られていないことも特徴の一つと言えます。

統合失調症は高血圧や糖尿病などの生活習慣病と同じように、早期発

見や早期治療、薬物療法とご本人・身近な方々の協力の組み合わせなど、再発防止も含めた継続した取り組みが大切です。

統合失調症の治療は、人に本来備わっている回復力に関係しています。それに加え、本人にもともと備わっている強み（ストレングス）に目を向けることも大切となります。その中で、本人が病気や薬について学んだり、同じ経験をした仲間と生活の工夫を語り合ったりする経験も助けになります。また周囲の方々の理解と応援が本人の力になることは確かです。

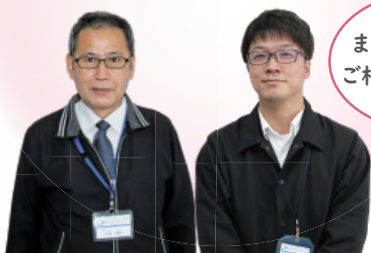
近年では、症状の改善のみならず、本人の望む生活と人生の回復過程（リカバリー）が重視されるようになってきており、当事者としての経験をもったスタッフ（ピアスタッフ）の存在や、当事者が自分自身のライフヒストリーを再編する当事者研究が注目されています。また市民のみなさんがこの疾患に関する知識

や理解を高めたり、社会や医療従事者をもつ偏見（ステイグマ）を軽減するための取り組みも重要となっています。

※主な症状の例（症状の内容はその人によってさまざまです）
・幻聴：目の前にいない人の声が聞こえる
・妄想：自分はなにかにいじめられている、何かが襲ってくる、自分が排除されている等が真実だと思う

当センターは、障がいや難病等のある人やそのご家族、地域の人や福祉サービス事業所などの関係機関からの相談もお受けする総合的な相談窓口です。

日々の暮らしの中での困りごとや将来への不安など一緒に考えていきましょう。



まずはお気軽にご相談ください！